

# 小児心臓科

## ○ 小児心臓科の概要

### 1. 小児心臓科の特色

小児心臓科は、先天性心臓病と小児心臓病の診断、治療（薬物、カテーテル、手術）を専門に行う。特にカテーテル治療数は国内でも常に上位に位置しており、Amplatzer 心房中隔欠損閉鎖栓、Amplatzer 動脈管閉鎖栓の認定施設には各閉鎖栓の認定開始初年度より認定施設の資格を取得しており、症例数も多い。心エコー、カテーテルによる心機能評価、カテーテルアブレーション、デバイス植込み、さらに重症心不全小児例に対する補助循環治療も行われており、小児心疾患すべての治療を研修可能であり、このような施設は本邦では極めて少ない。この結果、多数の論文投稿も行われており、学会発表も盛んである。

また、小児の心臓移植前後の症例管理も行っている。

### 2. 診療実績

年間心臓カテーテル検査 250 例、カテーテル治療 150 例

### 3. 診療・教育スタッフ

住友 直方(教授)：小児循環器一般、カテーテルアブレーション、デバイス治療

小林 俊樹(教授)：小児循環器一般、カテーテル治療、心臓移植、胎児エコー、成人先天性心臓病

葭葉 茂樹(助教)：小児循環器一般、カテーテル治療、集中治療学

ほか、助教 7 名

### 4. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医（指導者）

研修責任者：住友 直方（診療部長）

臨床研修指導医：葭葉 茂樹

上級医（指導者）：小島 拓朗、小柳 喬幸

### 5. 臨床研修プログラムの特色

まず小児科医としての基礎研修終了後もしくは終了間近から平行して、小児循環器専門医研修プログラムが開始される。本プログラムでは基礎的な先天性心疾患の診断学と治療及び集中治療、不整脈学、治療学を学ぶことができる。

初期のトレーニングが終了後は、経食道エコーや胎児心エコーなどの特殊検査の研修が可能である。心臓カテーテルに関しても、診断カテーテルの研修後にバルーン拡大術を中心としたカテーテル治療の初期研修も行っている。

### 6. 経験目標・到達目標

#### 一般目標（G10）

各症例に於ける適切な診断と病態の把握ができる。複雑心奇形症例の血行動態を正確に把握し、治療に反映する。不整脈診断を行い、適切な薬物治療、カテーテルアブレーション、デバイス治療について適切な指示ができる。重症心不全に対する、補助循環の管理ができる。

#### 行動目標（SBOs）

- 1) 病状と病態の把握
- 2) エコー診断学の理解
- 3) 集中治療の理解
- 4) 診断的心臓カテーテル検査
- 5) 不整脈診断、治療
- 6) 重症心不全に対する管理

#### 到達目標と評価表（1ヶ月間研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 受け持ち症例の病状把握が正確に出来る。	( )	( )
2. 受け持ち症例の病歴や治療歴の把握が出来る。	( )	( )
3. 採血や点滴、PI ライン確保など基礎手技が出来る。	( )	( )
4. 不整脈の診断ができる。	( )	( )

## 到達目標と評価表 (2ヶ月目以上研修した場合)

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 複雑心奇形疾患に対するエコー診断がある程度可能	( )	( )
2. 中心静脈穿刺・確保が出来る。	( )	( )
3. 緊急時の気道確保・気管挿管が出来る。	( )	( )
4. 強心剤の薬効理解と使用法	( )	( )
5. プロスタグランディン製剤の選択と適切な使用。	( )	( )
6. 不整脈に対する適切な薬物を選択する。	( )	( )
7. 重症心不全に対する補助循環の管理ができる。	( )	( )

## 7. 週間スケジュール

- (月) 午前：集中治療室回診 (7:15～)、カテーテルカンファレンス、カテーテルアブレーション  
午後：心臓カテーテル  
夕方：症例検討会・当直医申し送り
- (火) 午前：集中治療室回診 (7:15～)、心臓カテーテル  
午後：心臓カテーテル、小児心臓外科、小児麻酔合同カンファレンス  
夕方：症例検討会・当直医申し送り
- (水) 午前：心臓カテーテル  
夕方：症例検討会・当直医申し送り
- (木) 午前：集中治療室回診 (7:15～)  
夕方：症例検討会・当直医申し送り
- (金) 午前：集中治療室回診 (7:15～)  
夕方：症例検討会・当直医申し送り
- (土) 午前：集中治療室回診 (7:15～)  
夕方：症例検討会・当直医申し送り

## 8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1  
埼玉医科大学国際医療センター 心臓病センター  
小児心臓科 住友 直方 (診療部長、教授)  
E-mail: sumitomo@saitama-med.ac.jp